

竹屋陶板浴社長
京子のつぶやき
気づかないことがたくさん

No.92

屋久島の縄文杉に出会ってきました。若石の森田先生や陶板浴で電磁波やクロスリ絵の講演を下さったプラス・レイの竹内さん、大阪で鍼灸師をしている安藤先生そして私、熟女4人のまさに珍道中でした。竹内さんからの話を聞いて「あら私も行きたい」と軽く乗ってしまいました。「種子島に縄文杉があるのかな」と地図の位置も解からず、どんな大変な行程があるのかも知らなかったから参加出来たようなものです。知らないと怖いこともあります、知らない方が幸せなこともあることを実感しました。

屋久島はどんなに時が刻んでも変わらない、変わらないからこそ人をひきつける魅力があるのでしょうか。雨でも台風でもこの島に来る方たちが毎日絶えない、都会からの移住者も増えているという理由は、地球が生れた悠久の歴史を感じる大自然のなかで、自分の人生を重ね、地球の歴史上ほんの一部にしか過ぎないことを確認しに来るのでしょうか。この大自然を目の前にしたら日頃の課題や悩みなど、ほんのちっぽけな事柄に思え、生まれ出たことだけでも幸せと心の充足感が湧き出てきます。

あるお客様が一人では歩行困難となり、自宅で養療していましたが「陶板浴に来たい」と介護タクシーを使い来てくれました。奥様が「介護タクシーを使い初めての外出先が陶板浴です、皆さんに会いたいと言うので」と言ってくれました。私たちは懐かしい顔と嬉しさで幸せの空間が広がったのを感じました。お帰りになったあと、もっとしてあげられることがあったのではないかと悩んでしまいました。

竹屋陶板浴は今年の11月に14年目を迎えることになります。病気の方や体調不良の方たちに「これでいいのかな、もっと私たちに出来ることではないか」といつも悩みはつきものです。会長が早朝4:00から一人で始め、過労で倒れてしまったときは、陶板浴を閉めたいと思ったときもありましたが、その時も沢山のお客様の声に支えられ、どうにか14年を迎えることができました。私はいつも、いつも周りの人たちに支えられています。なんと幸せな環境にいるのでしょうか。

人生100年と言われ健康を気遣う人たちが増えてきたように思います。陶板浴もその方たちのお手伝いがしたい、陶板浴の原点であるガンの人たちや心が疲れた人たちが元気になれる場所を提供したいと始まった陶板浴。さらに昨秋から始まった、薬に頼るだけでなく自ら健康な身体を維持していくための、様々な施術家さんを紹介し地域で健康な輪を広げていく「整え会」も進んでいます。自分に合った健康法をしながら、後悔のない生き方をしたいと思います。身体の免疫力は陶板浴にお任せ下さい。